

世界中の慰安婦

What the World Owes to the Comfort Women

2月2日(火) 13時半~16時 コロンビア大学教授 キャロル・グラックさん



Carol Gluck (キャロル・グラック)

1962年米国ウェルズリー大学卒業。77年コロンビア大学で博士号取得。歴史学者。日本近現代史専攻。75年から同大学で教え、現在、ジョージ・サンソム歴史学講座教授、グローバル思想委員会 (Committee on Global Thought) 委員長。著書『歴史で考える』(岩波書店) 他多数。2015年6月には米国の日本研究者ら400人とともに、日本の歴史認識を巡り、過去の過ちの「偏見のない清算」を呼びかける声明を発表。

講演要旨：

共通の記憶の仕方と規範は、第二次世界大戦終結以来 70 年のうちに変化し、私が「グローバルな記憶文化」と呼ぶものを生み出してきた。法律、証人の役割、権利の領域、謝罪の政治、責任の概念における変化が、過去を正當に扱うことに対する私たちの理解を変えてきた。そして、その度ごとに慰安婦問題は、性的暴力と女性の権利に対する態度を変えることを助けた。つまり、元慰安婦が世界を変革する役割を果たしてきた。

Summary :

The practices and norms of public memory have changed in the seventy years since the end of World War II creating what I call a “global memory culture.” Changes in the law, the role of witnesses, the realm of rights, the politics of apology, and concepts of responsibility have transformed our understanding of doing justice to the past. And in each instance the former comfort women have played a role in that transformation, helping to change attitudes toward sexual violence and women’s rights -- helping, in short, to change the world.

写真は2009年6月、「女性展望」2009年8月号対談「いま、日米関係を考える—新しいナショナリズム台頭の中で」で西崎文子・成蹊大教授(当時)と。@婦選会館。

●通訳：道下匡子(みちした・きょうこ) / 作家・翻訳家

昨年(2014年)から毎月開講中の連続講座(「戦後 70 年」を考える)の特別枠として、標記講義を企画しました。昨年暮れに日韓政府は慰安婦問題で歴史的合意をしましたが真の解決となるのでしょうか。グローバルな視点で考えてみたいと思います。

時 ● 2月2日(火) 13時半~16時(開場 30分前)

所 ● 婦選会館 渋谷区代々木 2-21-11 定員 ● 35名(要予約) 参加費 ● 1,800円。学生は半額

申込み先 ● TEL 03-3370-0238 FAX 03-5388-4633 Email fitikawa.moushikomi@fork.ocn.ne.jp

..... 申込書

お名前

連絡先

メッセージ